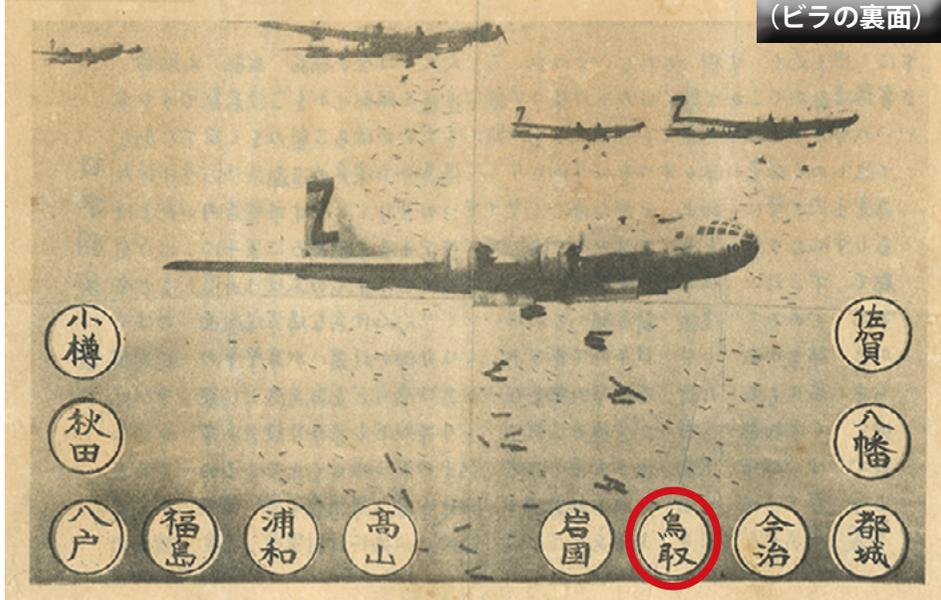


近代

第15章 恐慌と第二次世界大戦 3. 第二次世界大戦 (3) 敗戦

「鳥取空襲」予告のビラ

(ビラの裏面)



(ビラの表面)

(鳥取県立博物館蔵) ★

日本国民に告ぐ
 あなたは自分の親兄弟友達の命を助けようとは思いませんか。助けなければこのビラをよく読んでください。数日の内に裏面の都市の内全部若しくは若干の都市にある軍事施設を米空軍は爆撃します。この都市には軍事施設や軍需品を製造する工場があります。軍部がこの勝目のない戦争を長引かせる為に使ふ兵器を米空軍は全部破壊しますけれども爆弾には眼がありませんからどこに落ちるか分かりません。御承知の様に人道主義のアメリカは罪のない人達を傷つけたくはありません。
 ですから裏に書いてある都市から避難して下さい。アメリカの敵はあなたの方ではありません。あなたかたを戦争に引張り込んである軍部こそ敵でアメリカの考へてある平和といふのはたゞ軍部の壓迫からあなた方を解放する事です。さうすればもっとよい新日本が出来上るんです。戦争を止める様な新指導者を樹てて平和を恢復したらどうですか、この裏に書いてある都市でなくても爆撃されるかも知れませんが少くともこの裏に書いてある都市の内必ず全部若しくは若干は爆撃します。

解説

戦時中の米軍による本土攻撃は、
 ①爆撃機(B-25、B-29)による空襲
 ②空母からの艦載機(グラマン等)
 ③戦艦からの艦砲射撃
 などがある。

本格的空襲はサイパン島陥落後からであり、航続距離約6,500kmのB-29が日本を空襲して引き返すことが可能になってからである。

当初は軍需工場を標的とした。高高度からの爆撃であったが、1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲以降は、人口稠密地への焼夷弾投下による絨毯爆撃が本格化して、大都市はほとんど焼け野原になった。

6月以降は地方都市も対象になった。鳥取の美保基地や大山口、岩美の空襲は艦載機によるものであった。予告ビラの鳥取空襲については、米国内の収容所に入られている鳥取県人からも地形・気象などの情報を入手して攻撃の準備をしていたが実行前に終戦を迎えた。

本土空襲の被害は、広島・長崎の原爆を除いても死者26万人、被災者920万人と推定される。

(担当：小山富見男)

アジア・太平洋戦争(15年戦争)	
1931年 9月	満州事変勃発
1937年 7月	日中戦争勃発
1940年 9月	日独伊三国軍事同盟
1941年12月8日	ハワイ真珠湾奇襲攻撃
1942年4月18日	ドーリットル空襲(B-25双発爆撃機 16機による初空襲(指揮官ジミー・ドーリットル中佐))
1942年6月5日	ミッドウェー海戦
1944年 7月4日	サイパン島陥落
1944年	中国成都から発進したB-29による北九州への空襲
1945(昭和20)年	
3月10日	東京大空襲
4月 1日	米軍、沖縄上陸(沖縄戦)
7月	美保・米子・大山口・岩美空襲
8月5日	鳥取空襲予告ビラ撒布
8月6日	広島原爆投下
8月9日	長崎原爆投下
8月15日	ポツダム宣言受諾(無条件降伏)

参考資料

・鳥取県『新鳥取県史手記編 孫や子に伝えたい戦争体験(上・下)』(2009年)

★の写真は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。